

南陽っ子だより ④

日本はマイクロアグレッションが多い国？

今回は、「マイクロアグレッション」(無意識の差別的な言動)・「アンコンシャス・バイアス」(無自覚の偏見や固定概念)についてお話をさせていただきました。

今回は、マイクロアグレッションの背景について考えて行こうと思います。

差別は恐れから生じるという研究があるそうです。「同じ性質である集団、属している集団に身を置いて安心したい」という防衛本能的な心理から、自分と異なる肌の色や言語、振る舞いの違いに違和感を持つことになりやすいのだそうです。

これは人に備わった本能ですから、ある程度は仕方ないと思います。

そして、日本人独特の文化(習慣)として「恥の文化」が挙げられます。

「周りがそうだから」「人の目が気になる」「そんな行動は恥ずかしい」「人前で～」・・・恥の文化にまつわるフレーズは数多く出てきます。

日本の文化(習慣)として多数派に背く行動を「恥」として嫌ったのでしょう。

その様な文化が根本にある日本社会は、もしかするとマイクロアグレッションを生み出しやすい社会なのかもしれません。

「アンコンシャス・バイアスとは、人種、性別、セクシュアリティなどに対する、無自覚の固定観念や決めつけを指します」

先日、長崎県に初めて女性の副知事が誕生するというニュースが流

れました。このニュースの根本には女性差別の根強さを感じます。外国では、女性が組織の上層に立つことがニュースになるのでしょうか？

マイクロアグレッションが生まれる原因は、無知や思い込み、無意識であると言われる。事情をよく知らないまま、思い込みで無意識に発言してしまうことで、相手を不快にさせる可能性があるということらしいのです。

また社会的マイノリティ(少数派)に属する人々に対して、その経験や感情などを無価値なものとして扱うことも、マイクロアグレッションが生まれる原因のひとつです。

これがマイクロアグレッションの例

- 「ハーフだから可愛くていいね」
- 「女性なのに成功していてすごいね」
- 「男性なのに家事や育児を手伝っていてえらいね」
- 黒人男性がエレベーターに乗ってきた時にバッグをしっかりと抱える。
- 外国人やハーフの人に向かって「日本語お上手ですね」
- 目が不自由な人に対して、大きな声で話しかける
- 「それだけで食事足りるの？」(大柄な人に対して)

普段何気に言葉や行動に出しそうなことばかりだと思います。ただし、このような言動の裏側には、「人種や文化、社会に浸透している固定観念」や「自分とは異なるものに対する偏見や決めつけ」が隠れていることも理解できると思います。これが「アンコンシャスバイアス」なのです。

文責：田崎勇